

令和7年度 県立下館第二高等学校自己評価表

目指す学校像	スローガン『My New Story ～自らが創り出す未来～』のもと、体力と気力に満ち情操豊かな人間力を備え、地域に貢献し地域を牽引できる「人財」を育成する。			
	三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	スローガン『My New Story ～自らが創り出す未来～』のもと、体力と気力に満ち情操豊かな人間力を備え、地域に貢献し地域を牽引できる「人財」を育成する。		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○目標の連鎖に留意して学習活動、特別活動、道徳教育、人権教育等を行うことにより、心身ともに健康で情操豊かな、地域に貢献できる人材を育成する。 ○新学習指導要領の着実な実施を通じて、確かな学力を身につけ、社会の変化に対応して、他者と協働して課題解決にあたることのできる資質・能力を育成する。 ○「総合的な探究の時間」を活用し、地域と連携した探究型学習の充実を図る。		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○積極的に学習活動に取り組み、より高い学力を身につけたいと考えている生徒 ○地域の課題に興味・関心を持ち、地域社会との協働に意欲のある生徒 ○生徒会活動、部活動、ボランティア活動等に主体的に取り組む生徒		
	昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
	成果 重点項目7項目のうち、6項目で「B」となった。学習指導においては、県の施策である「授業改善プロジェクト」と連動させ自身の授業をビデオ撮影し、自ら視聴し、校長との面談を通して振り返るという取組を実施、また、11月には相互授業参観を行い、生徒の実態に合わせた授業及びICTを活用した授業推進等、教員の資質向上を図った。 また、挨拶の励行や服装に関する指導など、年間を通して行った生徒指導面での細かい取組が、落ち着いた学校生活の実現に結びついている。生徒の実態は小中学校をはじめとする旧下館地域から隣接地域(栃木県真岡市を含む)が本校生徒に寄せる高い信頼と期待に込めている。地域イベントへの出演や学校説明会等の対外的な取組は、本校の認知度の向上にも一役買っている。 進路指導においては、茨城大学、宇都宮大学など国公立大学に6名、法政大学、専修大学など私立大学に延べ202名が合格、その他、短期大学や専門学校を含めると95%が進学をしている。1学年における探究活動、2学年でのインターンシップなどキャリア教育を土大とした進路実績と評価された。部活動では陸上競技部が関東大会出場を筆頭に、多くの部活動で県大会以上の上位大会に出場し成績を残すことができた。文武両道を目指す、本校の様々な取り組みの成果と言える。また、土曜講座を活用して保護者を含めた講演会を実施し、進路指導教育の充実を努めた。	・学習意欲の高揚、学力向上に向けた授業改善	①積極的なICTの活用を含めた授業を推進し、主体的対話的で深い学びの実現と学力向上に向けた授業改善に取り組む。ICT活用の工夫をしている教員の割合70%以上を目指す。 ②公開授業・相互授業参観を推進し授業研究に努め、教員の資質向上を図る。生徒による授業評価の観点のうち「授業満足度」3.5以上を目指す。 ③「総合的な探究の時間」を充実させ、教科横断的な学習を通して、地域に貢献できる人材育成を図る。 ④生徒の実態に応じた選択授業などを行い、教科指導の工夫・改善・充実を図る。	B
		・生徒指導の総合的推進と「心の教育」の充実	①好ましい人間関係を基礎にした望ましい集団の実現に努める。 ②教育相談、教育情報交換会等を通して共感的理解をもって生徒理解を深める。 ③交通安全教育の推進と事故防止に努める。 ④家庭や地域・関係諸機関・団体と連携を密にして、健全な高校生の育成を図る。	B
		・キャリア教育・進路指導の充実	①キャリアパスポート等の活用により、キャリア教育を充実し、社会に貢献できる高度な人材育成を目指して大学進学を推進する。 ②3年間を見据えた計画的な進路行事を実施することを通して、望ましい職業観・勤労観を育成する。また、スタディサポートや模試を活用し学び直しや復習をすることで、学力の定着に努め生徒の希望進路実現を図る。 ③進路情報発信に努め、生徒のライフキャリア全体を見通した適切な進路実現を図る。	B
		・環境教育の充実と特別活動の活性化	①学校行事や清掃美化および緑化活動を通じて奉仕の心や環境保全の意識を高める。 ②生徒会活動や学校行事、部活動を通して、社会性やコミュニケーション力を高める。 ③筑西市と連携を深め、地域の実態や課題を把握し、地域貢献活動を行いながら豊かな情操を養い、活力ある学校づくりに役立てる。 ④部活動加入率70%以上を維持することを目標とする。	B
		・「道徳」教育の充実と「生きる力」の育成	①自己の尊厳を深く自覚するとともに、善悪を正しく判断し、自分の行動に責任を持てるよう「道徳」教育の充実を図る。 ②“下館二高3Aプラン (Assess, Act, Achieve) 自分を見つめ、行動を起こし、夢を達成する”の推進体制を整備し、進路について考察する学習活動を充実することにより、自己理解を深め「生きる力」の育成を目指す。	B
		・学校安全計画の策定と学校安全の意識の向上	①関連する教科・校務部・部活動等を含む学校安全計画の共通理解を図ることにより、安心安全な体制づくりをする。 ②学校安全委員会を中心に、安全・美化点検を定期的に実施し、学校安全の状況をチェックしその改善を図る。	B
		・働き方改革の推進	①学校行事の精選、効率的な運営を図る。 ②ICTを活用して業務の効率化を図るとともに、教職員の協働性を高め、業務の平準化を図る。 ③部活動運営方針を遵守するとともに、部活動数・顧問数など運営の見直しを図る。	B
	課題 総合型選抜・学校推薦型選抜で進学を決める生徒が約60%を占め、受験の終了時期が早まっている。そのため、国公立大学・難関私立大学に一般受験で臨む生徒のモチベーション維持に課題がある。 定時退勤日や完全退勤時間の設定などにより、働き方改革を進めており、教員間に浸透しつつあるが、引き続き時間外勤務の削減に向けた業務の効率化と平準化に努めていきたい。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
教	国語	学力の向上を図る。	生徒の実態と進路希望に対応した指導を展開し授業改善に努める。希望者には課外授業を実施する。	A	・より効果的なICT活用の推進 ・観点別評価基準の見直し	
			ICTを効果的に活用し、生徒が主体的に学習に取り組むことができる授業を展開する。	B		
			小テストを利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒には補習を実施する。	B		
		自学・自習の習慣を身につけさせる。	週末や休業中に課題を出し、自学・自習の習慣を身につけさせる。	A	A	
	地歴・公民	生徒の進路希望に応じた学力の向上に努める。	定期考査による生徒の学習状況確認、小テストや確認テストを行い、学習到達度を把握し、今後の指導に生かす。	A	A	よりよい授業のために教科内でさらに情報を共有する。ICTの活用を積極的に取り入れ、授業改善につなげる。
			生徒の進路希望に対応した授業内容を展開し、大学進学希望者には課外等を実施する。	B		
			生徒の進路実現のための各種模擬試験等に対しては、試験対策・解説授業を展開する。	A		
		広い知識と理解力の向上のために、授業の改善に努める。	教科内で授業観察を行い、指導方法や授業改善に努め、よりよい授業へと向上させる。	B	B	各学年、年に一度は外部講師等を招いた授業を展開する。
		高校教育研究会等の各種研修会に参加し、情報の共有や自己研鑽・授業改善に役立てる。	B			
		必要に応じて外部講師等を招き、知識の有用性を認識させるため体験的な学習を展開する。	B			
	数	視聴覚教材やICTを活用して、学力の向上のための授業改善に努める。	生徒のレベルに合った視聴覚教材やICTを活用し、生徒の理解度を上げるための授業改善を図る。	B	B	適切な学習法を示し、自主学習の意欲喚起および学習習慣の定着を図る。生徒の実態に応じた授業の工夫やICTの有効な活用について、相互研修や自主研修を継続する。
			課外授業や個に応じた指導等を通して、学力の向上を図る。	B		
		朝学習や小テストを定期的に行い、基礎力の定着を図る。	B			
	家庭学習の定着に努める。	定期的に課題を与え、家庭学習の定着を図る。	B	B		
理	生徒の進路希望に応じた基礎学力の向上を図る。	生徒の進路希望に応じた授業を展開し、大学等への進学希望者には課外等を実施する。	A	A	実験環境を整備し、観察・実習の充実を図る。 新教育課程下の「指導と評価の一体化」を推進し、授業改善を実現する。	
		休業中には課題等を与えて、学習習慣の定着を図る。	A			
		実験を適宜実施し、興味・関心を高め、協力しながら学びあうような授業の展開を図る。	B			
	視聴覚教材やICTを活用し、興味・関心の高揚を図る。	実験観察動画等の視聴覚教材、またはICTを利用した授業を展開し、生徒の学習意欲を高揚させる。	A	A		
科	保健体育	各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けられるよう授業の改善に努める。	生徒の興味・関心の持てる種目を取り入れ、運動に親しむ態度を身につける。	A	B	夏の熱中症対策を取り、生徒の健康に留意しながら、モチベーションを保つことに苦心した。
			各種目の練習の仕方、ルールや審判の仕方の理解度を確認する。	B		
			学習評価について観点別評価を充実させ、生徒に分かりやすい評価に努める。	B		
			実技において、自分に合った練習によって技能や記録の向上を図る。	B		
芸	美術	個別指導を充実させ、個性的・創造的な表現の能力を伸ばす。	生徒の実態に応じた授業選択を取り入れる。	B	B	・ICTを活用しながら、生徒の芸術への興味・関心を高めた。相互鑑賞を取り入れ、鑑賞力の向上を図った。
			課題制作や実技テストを通じて、生徒一人一人の能力や到達度を把握する。	B		
			評価においては、観点別に評価する。	B		
	伝統文化への理解を深め、鑑賞能力を育成する。	作品発表を通して、互いに鑑賞し合う場を提供する。	A	A		
	視聴覚教材等を活用し、名作を鑑賞する機会を取り入れる。	B				
英	語	一人一人の能力を把握し、個に応じた学習指導を充実させ、英語の基礎学力の向上を目指す。	ICT機器を活用し、効率的かつ魅力的な授業になるよう工夫し、生徒の学習意欲を喚起する。	B	B	・有効なICT機器の活用方法を授業観察で共有し、効果的な指導法の模索を継続する。 ・教育課程に応じた教材研究や学習評価基準・観点別評価を共有し、指導と評価の一体化を図る。
			週末課題等を与えて、学習習慣の定着を図る。	A		
			小テストを通して、学習理解度を確認する。	A		
			洋書を読む機会を奨励し、主体的に英語を学ぶ姿勢を養う。	B		
			英語外部試験などを活用して、資格取得を奨励する。	B		
			課外授業等を実施して学力向上を図る。	A		
	自学自習の習慣を身につけさせる。	課題やテスト等の到達目標ラインを生徒に示すなどして、自学自習の習慣を身につけさせる。	B	B		
家	庭	家族や生活の営みを人の一生との関わりの中で捉え、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てることを目指す。	個々の生徒の実態把握に努め、興味・関心を高める授業展開を図る。	B	B	実習や実技が困難な生徒が増えているため、今後もホームプロジェクトの課題等で実技の向上をさせたい。
			作業や実習を取り入れ学習効果を高めるとともに、ホームプロジェクトで実践的な能力や態度を身につけさせる。	A		
			実習やグループ学習を通じて、男女が協力して創造する態度を育み、キャリア発達を図る。	B		

教科情報	各種ソフトウェア操作に慣れ、情報の基本的表現・処理能力の向上を図る。 自律的な学習習慣を身につけさせる。	各種ソフトウェアを用いて、簡単な情報表現や情報発信ができるよう知識や技術の向上を図る。	B	A	情報分野の多様な話題に触れることにより涵養される興味・関心を学習習慣に結びつける。
		プログラムを作成して処理を実行する実習を行い、プログラミング的思考の涵養を図る。	A		
		情報分野の多様な話題に触れ、また情報のアウトプットの機会を多く持つことで、興味・関心を持ち自律的に学習する習慣を身につけさせる。	A		
教務	学校行事・日課の適切な運営を行い、授業時間の確保に努める。	各校務分掌、学年などと連携し、効率的な学校行事の運営に努め、授業時間確保に努める。	B	A	・教育課程の見直し継続 ・定期考査日程や回数等検討 ・バランスのとれた効果的な年間行事計画の検討
		授業交換簿を適切に管理し、日々の授業に関する情報提供等に努める。	A		
		スクールガイドの配付や学校説明会、学校公開を通して、情報発信に努める。	A		
	教育課程の適切な運用、および学力向上のための授業改善を図る。	教育課程について各学年・各教科と連携して適切な運用に努める。	B	B	・効果的なICT活用や適切な観点別学習評価についての情報提供の方策
		相互授業参観などの研修の機会を設け、生徒の学力向上のための授業改善を図る。	B		
諸帳簿・諸用紙の整備と保存、記録の正確化を期す。	教職員が使用しやすいよう諸帳簿等を整備し、適切に管理することにより、業務の効率化を図る。	B	B		
情報管理	校内LANの適正な運営を行う。	校内LANの適正運用やセキュリティの強化に努め、様々な情報の適正利用を推進する。	A	A	令和8年10月13日に、Microsoft Office 2021のサポートが終了するため、それまでに後継製品に移行する。
		校務支援システムの運用を適正に管理し、正確な成績処理や個人情報保護に努める。	A		
	情報機器を利用した学校業務の効率化を推進し、生徒の適正使用を支援する。	生徒の情報機器利用について、有効かつ安全な活用が出来るように支援する。	A	A	
		本校のWebページを適切に管理・運営し、学校内外に対して様々な情報を提供する。 校務の効率化を図るため、関連する備品等の適切な管理に努める。	B A		
特別活動	学校行事・部活動を通して望ましい人間関係を形成し、連帯感のある豊かで充実した学校生活を送る。	文化祭・球技会について生徒主体の企画運営を行う。	A	A	恵幸祭（文化祭）と式翔祭（体育祭・球技会）を毎年開催することになり、生徒会や実行委員会による活動の充実を図り、生徒主体の学校行事を運営したい。また、より一層の部活動の活性化を図る。
		各学校行事の意義を理解させ、全員参加の指導を徹底する。	A		
		学校行事を通して、クラスの連帯感を強め、生徒の協調性を養う。	A		
	特別活動を通して、自主性・協調性を養い、協力して諸問題を解決しようとする態度の育成を図る。また「キャリアポート」を活用し、活動の蓄積を行う。	学校行事の充実と向上を図る生徒会活動は、生徒主体による企画運営を行う。	B	B	
		生徒が部活動に積極的に参加できる環境を作り、部活動加入率80%以上を目指す。	A		
		部活動において生徒の自主的・自発的な活動が促進できるよう顧問が適切な援助指導を行う。 目標を持ち、最後まで努力することで、達成感を体験させる。また、その活動を「キャリアポート」に記録させる。	B C		
生徒指導	社会的資質や行動力を高める。	朝の登校指導やさわやかマナーアップ運動を通して、挨拶を励行し、適切な制服の着用を促す。	B	B	・校内における携帯・スマホ利用のルールを検討 ・職員向け特別支援教育研修の早期実施 ・自転車通学者のヘルメットの着用促進 ・自転車保険全員加入
		学校やホームルームにおいて、好ましい人間関係を基礎にした望ましい集団の実現に努める。	A		
		薬物乱用の危険性を理解し、適切な意志決定や行動選択ができる資質と能力を身に付けられるようにする。	A		
		携帯・スマホ安全教育を進め、情報モラルを高める。	B		
	生徒の特性や状況に応じて指導する。	教育相談、教育情報交換会等を通して共感的理解をもって生徒理解を深める。	A	B	
		特別支援教育の充実を図る。	C		
		生徒の問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。	A		
交通安全教育の推進と事故防止に努める。	生徒対象の交通安全教室等の実施や、講習会等を通じて交通安全教育の充実を図る。	B	B		
	自転車・バイク点検や講習会等を実施し、事故防止に努める。	A			
家庭や地域・関係諸機関・団体と連携を密にして、健全な高校生の育成を図る。	地元教育委員会や警察と連携し、問題行動の未然防止を図る。	A	A		
進路指導	生徒が自在に方・生き方を考え、主体的な進路選択ができるように支援する。	各学年で進路講演会を実施。1学年は夢ナビに参加、大学模擬授業を実施。2学年は大学見学会を実施する。	A	A	・学習習慣の確立（進路活動を通して自分の進路について深く考え、進路目標に向かって学習の意志を持ち続けられるよう指導を工夫する） ・年々増加している総合型入試への対策支援 ・プライトホール、進路閲覧室の活用促進
		本校卒業生の受験報告会を実施する。	A		
		医療系出張講座・一日看護体験・リハビリ体験等を実施する。	A		
		2学年でインターンシップ（看護医療系、教育・保育系、公務員など）を可能な限り実施する。	A		
		プライトホールの利用を促し、自学自習の習慣の確立と学力の向上を目指す。	B		
	多様な生徒の実態に対応できるキャリア教育指導体制の確立を図る。	進学希望者に対して多様な課外講座を開設し、内容の充実と参加率の増大を目指す。	B	B	
		公務員・就職希望者に対して、指導を早期に行い、意識の高揚と進路実現に努める。	A		
		「進路の手引き」を発行し、進路情報を積極的に提供する。	A		
進路情報を充実させる。	「進路だより」を年3回程度発行する。	A	B		
	進路指導閲覧室の利用促進を図る。	B			
	前年度入試結果の情報を活用する。	B			

保健厚生	心身の健康を自己管理できる能力の育成。	健康の保持増進に関する情報を発信し、健康に対する意識の高揚を図る。	B	B	保健室利用生徒への対応について、各学年との連携を強化する。健康リスク（熱中症・感染症）への予防対策と健康指導を徹底する。環境衛生対策（特にダニアレルゲン対策）を効果的に実施し、学習環境を整備する。美化・保健委員会活動の促進による自立的な環境美化を推進する。
		各学年との連絡を密にし、生徒の健康状況を把握することにより、適切な保健指導を行う。	B		
	清潔な教育環境の確保と安全確保に努める。	安全・美化点検を定期的に行い、危険箇所・設備の状況確認を行う等、環境整備や環境美化に努める。	A		
		インフルエンザ、新型コロナウイルス等、感染症予防のための環境整備に努める。	B		
		教室内の空気・照度検査、飲料水の水質検査を定期的に行う。	A		
		各委員会活動をととして、校舎内外の環境美化に努めるとともに、美化意識の高揚を図る。	B		
防災避難訓練をととして、防火・防災の意識を高めるとともに、危険回避能力を身につけさせる。	A				
図書	自主学習を支援するために、図書の充実を図る。また、明るく開放的な図書館を目指し、利用の促進を図る。	資料の廃棄及び更新を適切に行い、利用しやすい環境を整える。	B	A	例年行われている『最初の一冊』『新書を読む』などを通して図書館利用の啓発を行った。文化祭では『戦後80年』をテーマに資料展示を行い、教科と協力して考える場を提供できた。
		生徒や職員のニーズに対応できる資料の収集に努め、学習活動や進路実現を支援する。	A		
		GIGAスクールを念頭に、広く確かな学びができるよう資料の拡充に努める。	A		
	生きる力を身につけるための支援として、読書の推進を図り、表現力を高める。	生徒・職員の希望図書を購入し、「新着図書案内」を発行する。	A		
		「図書館だより」を発行し、図書館行事や教員・生徒の読書体験等を紹介する。	A		
		図書委員会主催の読書会を開催し、様々な読みを知ることによる読書体験の深化を促す。	B		
図書館教養講座をととして、表現力を豊かにすることを促す。	A				
渉外	PTA総会など各種行事への保護者の参加率を高め、家庭との連携を密にする。	家庭と学校が連携を図り、生徒一人一人の健全な育成を図るよう支援する。	B	B	・PTA活動の参加率向上。 ・時代の変化に合わせたPTA組織、活動のあり方の検討。
		PTA総会、各支部会活動を通して各支部の機能が十分発揮できるようにする。	B		
		学校の教育活動を積極的に広報するため、PTA便りを年2回発行する。	A		
		PTA活動の活性化のため、会員相互の親睦と研修の機会を設定する。	B		
第1学年	基本的生活習慣と規範意識の確立、他者の気持ちを考えて行動できるようにさせる。	生徒への声かけや面談等を充実させ、遅刻・欠席・早退の減少を図るとともに、自己管理意識の育成を図る。	B	B	授業を軸とした学習活動リズムを再構築する。規範意識を育むことができるよう呼びかけ声かけをすすめていく。高校卒業後の見通しを早く持たせられるようにする。
		服装・頭髪の確認を図り、高校生らしい身だしなみを身につけさせる。	B		
		挨拶の励行やルールの遵守等、規範意識の高揚を図る。	C		
	進路実現のための主体性を高め、学習習慣の確立、基礎学力の定着を図る。	授業を大切にし、予習・授業・復習の学習習慣サイクルの定着を図る。	B		
		LHRや探究、進路行事を有効に活用し、自己目標の設定等、キャリア意識の高揚を図る。	B		
		定期考査・模擬試験等の分析を行い、生徒の学習状況や課題など、学年の状態を客観的に把握する。	A		
学校行事や部活動、生徒会活動への積極的な参加を促す。	部活動への参加を通して、自己管理能力を育み、人間関係を広げることで、コミュニケーション能力を向上させる。	B			
	学校行事への参加を通し、生徒の自主性や積極性を育成し、自己肯定感を育む。	A			
第2学年	基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚を図る。	家庭との連携を密にし、欠席・遅刻・早退の減少を図る。	B	B	服装頭髪の乱れは、継続して指導していきたい。家庭学習をさらに呼びかけ、学力アップを常に目指し、次年度の進路実現のためにも、危機感を持たせる必要がある。また、成績上位層を引き上げるための手立てを考える必要がある。
		服装・頭髪指導の徹底を図り、身だしなみを自ら意識できる習慣を育む。	C		
		挨拶の励行やルールの遵守等、規範意識の高揚を図る。	B		
	基礎学力の向上や学習習慣の定着及び、進路目標の明確化を図る。	予習・復習等の家庭学習を習慣化させ、基礎学力の定着を図る。	C		
		LHRや進路行事の有効活用および個別面談を通して、進路目標の明確化を図る。	B		
		定期考査・模擬試験の学習目標を立て、自主的・計画的に取り組む姿勢を養う。	C		
特別活動などに積極的に参加させ、仲間との協力を促すとともに、自ら考え行動する姿勢を養う。	部活動・委員会活動などの参加を促し、中堅学年としての自覚を持たせる。	A			
	学校行事等に積極的に参加させ、様々な体験をさせるとともにコミュニケーション能力の向上を図る。	B			
第3学年	希望進路の実現に向けた意識を高めるとともに、進路指導の充実を図る。	多様な進路希望や入試方法を把握し、個に応じた細やかな指導を行う。	B	B	生徒それぞれの進路希望に対して、担任が親身になって相談に乗り進路指導を行えたものの、生徒の主体的な取り組みを引き出すことが難しかった。3年間を通して生徒の規範意識を高めることができた。
		学年・進路指導部・保護者との連携を密にし、計画的かつ組織的に指導する。	B		
		目標設定や学力向上等、生徒の主体的な取り組みを促し、早めの準備をさせる。	C		
	最上級生としての模範となる行動及び特別活動への積極的な参加を促し、高校生活の充実を図る。	基本的生活習慣の確立・校則遵守等、規範意識の高揚を図る。	C		
		部活動・学校行事等での積極的な活動を促す。	A		
		学校生活全体を通して、より良い人間関係の構築を図る。	B		
規範意識の確立を図るとともに、社会人としての資質を育む。	社会のルール・マナーを守る態度を育む。	B			
	様々な活動に主体的に取り組ませ、自己の言動に対する責任を自覚させる。	B			

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない